

障害科学学会2007年総会

学会企画シンポジウム「大学院における特別支援教育に関わる教員養成の在り方」

これからの特別支援教育に求められる教員の資質と養成について

宮崎 英 憲

1. 「教員に求められる資質能力」を考える

中央教育審議会『今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)』(平成18年7月)では、次のような点を『教員に求められている資質能力』としてあげている。

① いつの時代にも求められる資質能力

教育者としての使命感、人間としての成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力。

② 今後特に求められる資質能力

- ・地球的視野に立って行動するための資質能力
- ・変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力
- ・教員の職務から必然的に求められる資質能力

③ 得意分野を持つ個性豊かな教員

画一的な教員像をもとめることを避け、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、積極的に各人の得意分野づくりや個性の伸長を図ることが大切である。

また、中央教育審議会『新しい時代の義務教育を創造する(答申)』(平成17年10月)では、優れた教師の条件として、以下の3つがあげられている。

- ① 教職に対する強い情熱
- ② 教育の専門家としての確かな力量

③ 総合的な人間力(協力する力)

以上のような考え方に立脚し、現状の教員養成・免許制度の改革としてあげられたものが、以下の3つである。

- ① 教職課程の質的水準の向上
- ② 「教職大学院」制度の創設
- ③ 教員免許更新制度

これらのうち、②「教職大学院」制度創設の基本的な考え方は、以下の通りである。

- ① 学部段階での資質能力を習得した者の中から、さらにより実践的指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新入教員の養成。
- ② 現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員として不可欠な指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成。

2. 特別支援教育に求められる教員の資質能力

特別支援教育においては、上記の『教員に求められている資質能力』の加えて、次のような点が求められている。

- ① 障害に対する深い知識と技能。
 - ② 保護者・本人との相談に関する資質・技能。
 - ③ たとえば複数担任制のように、教員相互で連携・協力して授業等をつくっていく資質能力。
 - ④ 地域や関係機関及び小・中学校等との連携協力関係を構築していく資質能力。
- 大学において特別支援学校教員に求められる

これからの特別支援教育に求められる教員の資質と養成について

「技能」の育成を目指すためには、以上の点を念頭に置いた、系統的な育成プログラムを構築する必要がある。そのプログラムを通して、障害に対する深い理解に基づいた実践力や、特別な教育的ニーズを有する児童生徒への対応能力と指導力、チームワーク力、地域支援のマネージメントを初めとするコーディネーション力の形成を目指すことになる。

3. 新たな特別支援教育時代に貢献できる大学院での教員養成

大学院における特別支援教育を推進する力量を有する教員の養成については、「教職大学院」構想で述べられている基本的考え方と、大筋では一致していると考ええる。その上で、特別支援教育に求められる教員の資質能力として前述したような点をさらに発展・強化して特別支援教

育のスペシャリスト養成を可能とする養成プログラムが求められる。特に、以下の点に留意したプログラムの検討が必要であると考ええる。

- ① カウンセリングマインドやコミュニケーション技能の育成
- ② アセスメントに基づき個別の教育支援計画や個別指導計画を作成する技能
- ③ 通常学級に在籍する障害のある児童生徒支援のための授業技能

したがって、大学院での教員養成は、特別支援学校教員に求められる高い専門性の獲得と実践研究力を可能とする研究スキルの獲得に加えて、新たな特別支援教育時代の社会的要請の強い特別支援教育コーディネーター養成プログラムを加味した複線型のカリキュラムの必要性が求められていると考ええる。